

奈良県立医科大学附属図書館における 感染症・抗菌薬関係図書の現状と選書について

島田 祐衣

奈良県立医科大学附属図書館

【Ⅰ．背景と目的】

奈良県立医科大学附属図書館（以下、当館）に入職して1年目の2022年度は図書受入担当に従事した。2021年に司書資格を取得し、当館が司書として経験を積む初めての職場である。図書受入が主担当であるが、相互貸借の依頼業務や利用者教育活動等も経験する機会に恵まれ、日々学ぶことが多い。国内外を問わず最新の医療情報にまつわるトピックスを知ることができる環境だが、やはりこの1年間も新型コロナウイルスのパンデミックによる感染症関連の話題を目にすることが多かった。学生や医療従事者はもちろん、一般市民も感染症や抗菌薬により高い関心を寄せている。返却資料やリクエスト図書において、感染症や抗菌薬関連の資料が多い。研修医向けの医学雑誌には抗菌薬の適正使用について定期的に特集されている。さらに、新聞で多剤耐性菌がトピックとなっている記事が一面に取り上げられていたこともあった。これらの背景より、当館の感染症・抗菌薬関係図書のアップデートに挑戦したいと考えた。

【Ⅱ．調査方法】

当館の図書選書は、各教室の指定図書と学生及び教職員のリクエスト図書となっている。指定図書の推薦は予算に上限を設けた上で各教室の判断に任せており、年度によって指定図書冊数は異なる。今回の調査では、感染症及び抗菌薬関係教室である病原体・感染防御医学（基礎医学領域）、微生物感染症学（基礎医学領域）、感染症センター（臨床医学領域）の指定図書を主に調査する。以下の項目を調査し、図書リストを作成して受入を検討する。選書ツールとして、医学書総目録2023等を参考とする。さらに、関係教室や部門にアンケート調査を行い、臨床現場の意見を取り入れた選書を目指す。調査結果については当日の発表で報告する。

- 過去の指定図書の版改訂調査
- シラバスにて指定されているテキスト、参考書で図書館未所蔵をリストアップ
- 関係教室への選書アンケート